

カタカナ語の英語学習に対する影響

Adverse Effects of Katakana Words in Japanese for Japanese Learners of English

原田 康也¹, 森下 美和², 平松 裕子³
Yasunari HARADA, Miwa MORISHITA, Yuko HIRAMATSU

¹早稲田大学, ²神戸学院大学, ³中央大学
Waseda University, Kobe Gakuin University, Chuo University
harada@waseda.jp, miwa@gc.kobegakuin.ac.jp, susana_y@tamacc.chuo-u.ac.jp

Abstract

The Japanese language employs at least three kinds of scripts or character sets in writing, Chinese characters, hiragana and katakana, although some also employ Roman, Cyrillic and other alphabets, emojis or emoticons of various kinds and all sorts of other items in their text exchanges. Katakana characters in modern Japanese have been used primarily to represent sounds such as onomatopoeia, loan words from European and other languages, scientific names of plants and animals and so on but in recent years, use of katakana characters have become so wide-spread and rampant in mass media, internet communication and everyday conversations and interactions, most notably in the fields of ICT, finance, medicine, fashion and gastronomy, that it started to mislead, disrupt and confuse communication among native speakers of Japanese, sometimes literally with fatal results. Mistakenly prescribed medication could lead to serious health hazards and the Japanese Ministry of Health, Labor and Welfare has issued a series of advisories and warnings against possible prescription errors. Part of the cause of this problem is that the names of medications tend to be coined as a series of katakana characters, for which most Japanese would not associate any intuitive sense of what the particular series of katakana characters might suggest in terms of possible medical effects. Rampant proliferation of katakana words and phrases also affects English language learning by Japanese students. First, English words most familiar to Japanese can also be found among loan words. When children first get acquainted with them as katakana loan words, they acquire their pronunciation as Japanese words. English words ending in a consonant are often mispronounced with a final superfluous vowel. Second, some loan words derived from English nouns are used in light-verb constructions in Japanese: English noun *choice* is often used in “*tyoisu-suru*” for instance. Some students mistakenly use these English nouns as verbs and inflect them into past forms, as in “*I choiced this class because I am poor in English.*” Third, students tend to use expressions such as *merit* and *demerit* contrastively in argumentative presentations and papers, influenced by frequently used katakana expressions such as “*meritto*” versus “*demeritto*,” but using *merit* and *demerit* contrastively is not customary in English writings. We will discuss some of those adverse influences and how to mitigate them.

Keywords — Katakana, Loan Words, Onomatopoeia, Ideophone, Familiarity, Language Contact

1. はじめに

今日コンビニなどでおやつを購入しようとするとき、「でたらハッピー♪ おっきいハート Calbee ベジタべる 緑黄色野菜入りあっさりサラダ味」のような文字が様々な書体と色使いでちりばめられた商品パッケージを目にすることになる。このような商品を物心がつく前から、日本語の読み書きを身に着ける前から、日常的に目にして育った子供たちは、どのような言語観・文字感覚を持って大人になるのであろうか。

1945年以降の現代日本語の書き言葉・文書作成において、ひらがな・カタカナ・漢字は極めて巧みな機能分化により、効率的な文字コミュニケーションを可能としていた。漢字は主に体言（固有名詞を含む名詞）・用言（動詞・形容詞・形容動詞）の語根・語幹に用いられ、ひらがなは助詞・活用語尾など文法的関係を示し、カタカナはオノマトペ・（ヨーロッパ言語からの）借用語・動植物の学名など、音そのものを表すのに用いられた。

漢字が日本語文書の中で意味の重要な部分を担っていること、カタカナ語はどちらかというと音をあらわし、意味との直接的な関連性が漢字よりも薄いことから、（欧米語からの借用語について原語を知っている場合は異なるところもあるが）多くの日本人にとってカタカナが並んだテキストは読みにくく、意味が取りにくいと感じられることが予想される。カタカナ表記が日本語母語話者にとって認知的負荷が高い可能性は、篠塚・窪田による研究 [10] の次のまとめからも支持される²ことが予想される。

大学学部生97人を被験者にし、CALL教室において、日本人にとっての語彙に対する親密度を合致させた日本語の四文字複合語を、漢字提示、ひらがな提示、カタカナ提示をし、意味理解度難易度を、難・中・易の3つを紙面に記載してもらった行動実験を行った。その結果、漢字表記の意味理解が被験者の全員が100%容易である

¹ ベジタべるあっさりサラダ味

<https://www.calbee.co.jp/shohinkensaku/product/?p=20150326153021>

² 松田・岡田の報告 [28] も参照されたい。

と判明した。約90%がカタカナ表記が一番難しいとの回答を得た。

書かれた文書から意味を読み取ろうとするとき、ページの中で画数が多くて見た目密度の濃い部分を追っていくとそこに漢字があり、用言の語幹と体言が集まっているため大部分の意味を理解できるというのは、日本語文書の優れた特徴であった。同じく人間を意味する「人」とカタカナで表記する「ヒト」とでは、前者には歴史的・社会的・文化的コンテクストが込められるのに対して、後者は生物種を示す（場合もある）というような使い分けも見られる。自称詞の「俺」・「おれ」・「オレ」が表記の違いによって異なる印象を与えるというような表記の視覚的効果の側面もあり、上記のような一般原則は常に順守されてきたわけではない。特に、広告・宣伝・マーケティング業界では、読者・視聴者・顧客の目を引き、印象に残ることを至上命題とするため、慣用的な表現や表記から外れようとする傾向が強い³。

2. カタカナ語・カタカナ表記の混乱

外国語を借用語としてカタカナで表記するに際し、日本語と原語の音韻体系の違いから音の表記としてずれが生じるが、そのずれをどのように処理してカタカナで表記するか、一元的・統一的な基準が存在しないため表記の揺れが大きく、文書処理の点からも自然言語処理の観点からも日本語教育・日本語学習の観点からも無視できない大きな混乱が生じている。平成三年六月二十八日付け内閣告示第二号「外来語の表記」[30]を見ても、以下のように適用範囲を限定し、一般的・包括的・強制的な規則として受け取られないような配慮が見て取れる。

外来語の表記
内閣告示第二号
外来語の表記
一般の社会生活において現代の国語を書き表すための「外来語の表記」のよりどころを、次のように定める。
記
平成三年六月二十八日

前書き

- 1 この『外来語の表記』は、法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表すための「外来語の表記」のよりどころを示すものである。
- 2 この『外来語の表記』は、科学、技術、芸術その他の各種専門分野や個々人の表記にまで及ぼそうとするものではない。
- 3 この『外来語の表記』は、固有名詞など(例えば、人名、会社名、商品名等)でこれによりがたいものには及ぼ

さない。

4 この『外来語の表記』は、過去に行われた様々な表記(「付」参照)を否定しようとするものではない。

5 この『外来語の表記』は、「本文」と「付録」から成る。「本文」には「外来語の表記」に用いる仮名と符号の表を掲げ、これに留意事項その1(原則的な事項)と留意事項その2(細則的な事項)を添えた。「付録」には、用例集として、日常よく用いられる外来語を主に、留意事項その2に例示した語や、その他の地名・人名の例などを五十音順に掲げた。

用語・表記の統一には「用字用語集」などにより整理する作業が不可欠であるが、一般社団法人共同通信社『記者ハンドブック 新聞用字用語集 第13版』[1]には次のような記述⁴がある。

(2)「ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォ、ヴェ」は「バ、ビ、ブ、ベ、ボ、ビュ」で表す。
[例]ウエーブ、ダイビング、デリバリー、バイオリン、ボール、ボーカル、レビュー

これに対して、高校世界史教科書は、(英語読みでなく)原語発音に基づく表記を採用する傾向がみられる。

表1 世界史教科書と他の表記の比較

詳説世界史 B ⁵	記者ハンドブックほか
ヴァイキング ⁶	バイキング
ヴァチカン ⁷	バチカン
ヴィーナス	ビーナス
ヴェルサイユ	ベルサイユ
コソヴォ ⁸	コソボ
サラエヴォ ⁹	サラエボ
ボスニア・ヘルツェゴヴィナ ¹⁰	ボスニア・ヘルツェゴビナ

このような表記方針のずれがあるなか、外務省が2019年4月から国名表記の変更を行い「セントクリストファー・ネイビス」を「セントクリストファー・ネービス」に、「カーボヴェルデ」を「カーボベルデ」と表記されることになり、世界各国の国名表記について「ヴ」を使わないという決定をしたという報道¹¹が話題となった。

これとは別に単語末の長音符の使い方も混乱している。『記者ハンドブック新聞用字用語集第13版』¹²で

⁴ [1] p. 755 外来語の書き方、用例 より抜粋

⁵ 木村靖二・岸本美緒・小松久男・ほか6名、詳説世界史 B 改訂版、株式会社山川出版社、2017年3月5日。

⁶ p. 128

⁷ p. 344

⁸ p. 401

⁹ p. 332

¹⁰ p. 270, 331

¹¹ 世界から『ヴ』が消える、2019年3月13日 特集記事 <http://www.nhk.or.jp/politics/articles/feature/15156.html>

¹² [1] p. 752 外来語の書き方、用例 より抜粋

³ この点については後に詳述する。

は

(7) 原語 (特に英語) の語尾の *-er*、*-or*、*-ar* などは、長音符号【ー】で表すのを原則とする。

【例】オリジナリティー、オールマイティー、キャパシティー、ケーススタディー、コーディネーター、コンピューター

としているのに対して、IT・ICT・電子工学関係の分野を中心として、長音符号を付けない慣行も根強い。コンピュータ・ソフトウェアの大手企業がそれまでの社内慣行を覆して長音符号を付けるという決定をしたときの業界の衝撃¹³は大きかった。

原語で複数語からなる外来語のカタカナ表記に中点「・」を使うかどうかとも表記の揺れの一因となっている。『記者ハンドブック新聞用字用語集第13版』¹⁴では次のようなまとめで、原理原則が感じられない。

(18) 2語からなる複合語には、原則として語間に中点「・」を付けない。ただし判読に困難な倍などは、この限りではない。

【例】ウオーミングアップ セクシュアルハラスメント

【例外】シンガー・ソングライター チマ・チョゴリ

カタカナ語の表記についてはこうしたガイドラインとは別に JIS Z 8301 : 2008 / Z 8301 : 2011 「規格票の様式及び作成方法」の「附属書 G (規定) 文章の書き方、用字、用語、記述符号及び数字」に G.6.2 「外来語の表記」¹⁵があり、特に G.6.2.2 「英語の語尾に対応する長音符号の扱い」がまとめられている。

こうしたカタカナ語・カタカナ表記の不統一と表記のゆれとは別に、外来語・擬音語・擬態語・擬声語などのカタカナ語をどのようにローマ字で表記するかという課題¹⁶は、原語つづりを用いるかどうかも含めてさらに混迷しているため、自然言語処理・音声処理の基礎データ作成や外国人向けの日本語教科書・学習書作成に影響を与えている。

3. カタカナ語の氾濫

外来語の活用は本来的には言語の語彙を豊かにし、その表現力を高める可能性があるが、近年の日本語におけるカタカナ語の使用は乱用から氾濫の域に達している感がある。飲食店のメニューやグルメ・ファッション・美容関係の雑誌等を見ると、単語としてカタカ

ナ語が多用されるだけでなく「リンスインシャンプー」・「チーズインハンバーグ」などの複合語的表現もみられ、要素となる単語・形態素から統語的・語形成的な関係により構成される意味が、原語として想定される英語などと異なる場合も多い。例えば“cheese on a cracker”と英語で表現すれば、cheese を意味するが、Chesco という「輸入ナチュラルチーズを扱う専門商社」が販売する「チーズオンクラッカー」のパッケージ¹⁷には、「この製品にはチーズは入っておりません。」という注意書きが印刷されている。「チーズ入りハンバーグ」を意味すると思われる「チーズインハンバーグ」をファミレスで見て育ち、チーズの入っていない「チーズオンクラッカー」のパッケージを食品店で見た育った子供たちが英語を学ぶようになって、果たして前置詞の持つ統語的・意味的な機能を正しく学ぶことができるのか、心もとない。

カタカナ語がこのように使用されるようになった現状について、言語接触の観点からその形態論・統語論・意味論を記述し言語理論的な特徴を解明しようとする研究¹⁸も見られるが、このような表現が氾濫している現状に対して、次の3点から警鐘を鳴らしたい。一つには、日本語での意思疎通に支障がないはずの母語話者同士のコミュニケーションに齟齬が生じている¹⁹点である。「ホテル de パソコン」や「あと de 分割」のような、日本語とも英語ともフランス語とも何語とも言えない表現や表記が広く使われ、「イミフ」のカタカナ語が氾濫する現状について、多くの日本人が違和感を表明し、世代間・業種間・個人間でのコミュニケーションの阻害要因となっている点もまた深刻である。次に、カタカナ語とそのもととなる外国語・日本語の単語が混同されることによる日本語・外国語の学習に対する悪影響²⁰も懸念される²¹。最後に、こうしたカタカナ語・カタカナ表記の氾濫により、日本語を学ぼうとする年少の母語話者・外国人定住者・外国人訪問者にとって、日本語の学習・習得が従来以上に困難になっている²²側面があることも指摘したい。

¹⁷ <http://www.chesco.co.jp/cheese/product/852-2/>

¹⁸ 言語接触などの観点からの調査・研究・論考として [3, 11, 14, 33-35] などがある。

¹⁹ [15, 17, 19, 20, 36] でこの点について紹介・言及した。

²⁰ [16, 18, 21, 22, 37] でこの点について紹介・言及した。

²¹ ここでは英語運用上の問題としてのいわゆる「カタカナ英語」については言及しない

²² 柏野が報告 [4] するようにカタカナ表記が和語・漢字語にも用いられ、外来語であることを示さなくなったことも難しさの一因である。

¹³ 一例として以下のような記事が今でも見つかる。

<https://www.atmarkit.co.jp/news/200807/25/microsoft.html>

<https://pc.watch.impress.co.jp/docs/2008/0725/ms.htm>

¹⁴ [1] p. 752 外来語の書き方、用例 より抜粋

¹⁵ <https://kikakurui.com/z8/Z8301-2011-01.html>

この点は佐良木昌氏の指摘による。

¹⁶ 藤家・竜岡の提案 [23] など参照。

4. 日本語母語話者間のコミュニケーションに対する影響

4.1. カタカナ語の目立つ分野

コーパスによる計量的な比較分析は今後の研究の進展に伴って報告する予定であるが、現時点での見通しとして、ファッション・コスメ・グルメ・ライフハック・ファイナンス・IT・コンサルティング・広告代理店関係などはカタカナ語の使用が目立つ分野ではないかと思われる。たとえば 2018/10/11 KADOKAWA 発行の「くり返し作りたいベストシリーズ vol. 15 主食にもなる「おかずサラダ」 anniversary 30th LETTUCECLUB レタスクラブ」を購入してみたところ、大文字と小文字の使い方が英語としてでたらめで LETTUSCLUB の途中にスペースがないのも英語担当教員としては気になるところだが、表紙だけで以下のようにカタカナ(語)が盛りだくさんである。

読者が選んだ“くり返し作りたい” / 「おかずサラダ」が / ギュッと一冊に！ / 作りおきマリネサラダも！ / 家族も大満足！ / ボリュームサラダ / デパ地下風 / おしゃれサラダが人気！ / 主役になる！ / 肉サラダ、魚介サラダ / みんなが作った！ 人気料理家の栄養満点サラダ / ホットサラダなら、体を冷やす心配なし / 女子会で大評判！ 持ち寄りデリサラダ / 家飲みにも！ 定番のポテサラ、マカロニサラダ

本文も以下のような具合でカタカナ語のオンパレードとなっている。

p. 6 豚しゃぶのおかずサラダ / みぞれドレッシング / レストランのプロデュース
p. 7 チキンソテーサラダ / デュジョンマスタード / リーフレタス / パリッパリ
p. 8 えびとはるさめのジンジャーマリネ / ワタナベマキさん / グラフィックデザイナー / ナチュラルレシピ / センスのいいシンプルなライフスタイル / おいしさもアップ / エスニックキャロットラペ / バクチャー / ドレッシング / ナンブラー / スライサー / 黄身はトロリ

輸入ナチュラルチーズを扱う専門商社チェスコのレシピ紹介ページ²³を見ると以下が並んでいる。

パルミジャーノレジャーノ 粉チーズと枝豆のボンデケージョ・マンチェゴのパンコントマテ・アペティーナホワイトの冷製トマトパスタ・スペインチーズの和風タルティーヌ・コンテのピンチョス・ベームスターのスコーン・ブリーチーズといくらのプリニ・レッドチェダースライス・ハワイアントースト・アメリカンクリームカップのプロフィットロール・ブラータのグリーングリーンサラダ・ベームスターロイヤルグラントリュ 12 カ月熟成のエスニックサラダ・モッツァレラスライスのアリゴ・ブルーインハンバーグ・ブラータトリュフのダッチパンケーキ・サムソーとタラのグラタン・ラクレットの野菜たっぷりタッカルビ・ブルサンペッパーのカルボナー

ラうどん・モッツァレラブファラトリュフのミートボール・ミニカマンベールの巾着おでん・ブラータと生ハム、りんごのサラダ

4.2. 定着しないカタカナ語

次の表 2 は、文化庁の「平成 14 年度「国語に関する世論調査」の結果について」 [24] と「カタカナ語の認知率・理解率・使用率【認知率順】」 [25] を元に、理解率ワースト 20 に対する大学生の認知度・理解率などをまとめた「中央調査報 (No.550)より：誤解多い慣用語、定着しないカタカナ語—文化庁の「国語世論調査」結果から」 [2] に掲載されているものであるが、広く使われているカタカナ語の理解率が低いことが示されている²⁴。

表 2 カタカナ語の理解度【ワースト 20】

順位	外来語	語義	理解率(%)
1	インキュベーション	企業支援、育成	3.3
2	エンフォースメント	法律などの施行・執行	3.4
3	コンソーシアム	企業連合体、共同企業体	4.1
4	タスクフォース	特定任務のために編成された部隊	4.9
5	メセナ	企業などによる芸術や科学の擁護、援助	5.7
6	エンパワーメント	権限の付与	5.7
7	トレーサビリティ	生産流通の履歴を管理し追跡できる仕組み	6.1
8	リテラシー	読み書きの能力、識字率	6.3
9	ガバナンス	支配、統治、社会的統括	6.8
10	バックオフィス	後方で事務処理や管理業務を行う部門	7.8
11	デジタルアーカイブ	資料をデジタル情報で保管すること	9.0
12	ジェンダー	社会、文化面の性差	10.0
13	スキーム	公的な計画、枠組み	10.4
14	インセンティブ	誘因、刺激、動機	10.4
15	モラルハザード	道徳的危険、道徳的節度を失った行動	10.5
16	モラトリアム	猶予、債務の返済期日を延期すること	11.4
17	サマリー	要約、まとめ	11.6
18	ノーマライゼーション	健全者と障害者とが隔てなく一緒に暮らす社会にすること	12.2
19	スケールメリット	規模の大きさに伴う利益	13.4
20	キャッチアップ	追いつく、遅れを取り戻す	13.6

大学 1 年生 75 名を対象に第一著者がこの 20 語についての認知度・理解度について google フォームを用いて簡便なアンケートを行った結果を表 3 と表 4 にまとめる。

²³ <http://www.chesco.co.jp/recipe/?s=&menu>

²⁴ 佐良木昌氏の指摘による。

表3 カタカナ語の認知度・理解度【ワースト20】

カタカナ語\回答	0	1	2	3	4	A	B	C
インキュベーション	63	11	1	0	0	69	5	1
エンフォースメント	35	38	1	0	1	39	29	7
コンソーシアム	69	6	0	0	0	73	2	0
タスクフォース	48	26	0	1	0	53	22	0
メセナ	41	34	0	0	0	56	14	5
エンパワメント	42	32	1	0	0	48	27	0
トレーサビリティ	30	43	1	0	1	55	13	7
リテラシー	6	47	13	3	6	9	49	17
ガバナンス	9	55	9	1	1	32	38	5
バックオフィス	62	12	1	0	0	71	4	0
デジタルアーカイブ	33	42	0	0	0	41	33	1
ジェンダー	2	43	16	4	10	4	24	47
スキーム	23	47	3	1	1	38	23	14
インセンティブ	12	50	10	0	3	28	32	15
モラルハザード	45	29	0	1	0	50	22	3
モラトリアム	6	52	10	1	6	19	30	26
サマリー	8	42	10	3	12	11	27	37
ノーマライゼーション	6	63	6	0	0	31	36	8
スケールメリット	49	25	0	0	1	54	16	5
キャッチアップ	34	40	1	0	0	51	23	1

表4 カタカナ語の認知度・理解度の略号凡例

0	見たことも聞いたこともない。
1	見たこと・聞いたことはある。
2	周りの大人（家族・親戚・先生・アルバイト先など）がよく使っている。
3	周りの学生がよく使っている。
4	自分がよく使う。
A	意味がわからない。
B	意味がなんとなく分かる。
C	意味がよくわかる

この20語の多くは、社会人になると避けられないものであるため、就職活動を控えた大学3年生や就職活動を経験した大学4年生の認知度・理解度が大学1年生とどのように異なるかも興味深い²⁵。

4.3. カタカナ語使用に対する不快感

こうしたカタカナ語の表記に関わる混乱や低い理解率のほか、カタカナ語ならびにカタカナ語を使用する話し手・書き手に対する不信感・不快感も目立つ。文筆家・評論家の書く世情批判的な文章の中にも、カタカナ語そのもの・カタカナ語を多用する文章や政治家などに対する不信感・不快感が見られる。【「加瀬英明の日本を守る」女性議員が日本国民の美意識を破壊 小池百合子氏の生半可な英語もひどい」という産経ニュースのコラム記事²⁶に以下のようなコメントがある。

政府や公共放送が、英語から借りてきた舌足らずな言葉を乱用するのも、やめてほしい。・・・小池百合子都知事も、ひどい。「ワイズ・スペンディング」（賢い支出）とか、「ファースト」とか、生半可な英語を振り回す。

²⁵ アンケート調査はすでに行っているが、データの集計等がまだ終了していない。

²⁶ [6] 参照。

一般人は、アンケート調査の結果をみるとかなりの程度の不快感を表明しており、意味が分かりづらいことがその理由として挙げられている。文化庁の「平成29年度「国語に関する世論調査」の結果の概要」[26]を見ると、「読んだり聞いたりする言葉の中に出てくる外来語や外国語などのカタカナ語の意味が分からずに困ることが」「よくある」（23.8%）・「たまにはある」（59.7%）・「困ることはない」15.4%となっている。「日常生活の中で、外来語や外国語などのカタカナ語を交えて話したり書いたりしていることを」「どちらかと言うと好ましいと感じる」13.7%、「どちらかと言うと好ましくないと感じる」35.6%「別に何も感じない」49.2%となっている。「外来語や外国語などのカタカナ語を交えて話したり書いたりしていることを」「どちらかと言うと好ましくないと感じる」と答えた人（全体の35.6%）に、その理由を尋ねたところ「カタカナ語は分かりにくいから」62.6%「日本語の本来の良さが失われるから」（39.4%）「体裁の良さだけを追っているようだから」（27.2%）、「言葉が乱れて日本文化が退廃してしまうから」（23.5%）としている。

次の表5は、カタカナ語を多用する話し手・文章に対する大学1年生72名の反応を簡単なアンケートで集計したものである。

表5 カタカナ語使用に対する印象

カタカナ語を頻繁に使う人は	かつこ悪い。	14
	どちらとも言えない。	44
	かつこよい。	14
カタカナ語を頻繁に使う人は	かしこそうに見えない。	18
	どちらとも言えない。	22
	かしこそうに見える。	32
カタカナ語を頻繁に使う人は	チャラく見える。	23
	どちらとも言えない。	37
	まじめに見える。	12
カタカナ語を頻繁に使う人は	信用できない。	29
	どちらとも言えない。	35
	信用できる。	8
カタカナ語をたくさん使った文章は	読みにくい。	57
	どちらとも言えない。	9
	読みやすい。	6
カタカナ語をたくさん使った文章は	わかりにくい。	54
	どちらとも言えない。	13
	わかりやすい。	5
カタカナ語をたくさん使った文章は	信用できない。	27
	どちらとも言えない。	39
	信用できる。	6
カタカナ語をたくさん使った文章は	専門的に見えない。	11
	どちらとも言えない。	14
	専門的に見える。	47
カタカナ語をたくさん使った文章は	読みたくない。	51
	どちらとも言えない。	15
	読みたくなる。	6

不快感については必ずしも明確な反応ではないが、読みにくい・わかりにくい・読みたくなれないという反応はある程度はつきり見て取れる。

地方自治体の文書についてネット上に（内容の正確さはともかく）次のような指摘²⁷が書きこまれていた。

老人福祉施設等で目につきますが、いつもカタカナで書いてるのが不思議です。たとえば、ケアプラン、ショートステイ、デイサービスは、それぞれ介護計画、短期宿泊預り所、一日と日本語で書いたら一目瞭然です。

厚労省の通達だと思いますが、みやま市は市民に分かりやすい日本語で表示されてはいかかかと思えます。誰にでも分かる美しい日本語をもっと使うべきだと思います。検討してみてください。

（平成19年7月受付）

ご指摘のとおり、確かにみやま市内に限らず全国的に介護保険の施設・事業所の看板などは「ショートステイ」、「デイサービス」などカタカナ表記が多いようです。このカタカナでの表記は、介護保険制度が開始される以前から広く使用されており徐々に浸透してきていることもあって、介護保険の施設・事業所の看板などにも使われているようです。

しかし、みやま市ではパンフレット・広報等に掲載する場合、カタカナと漢字を併記するように努めております。今後とも、できるだけ分かりやすい表記に努めて参ります。

（平成19年7月回答）

5. ねつ造されるカタカナ語

『ウィキペディア』のそれぞれの該当項目によると、**タカラジェンヌ**は「小林一三は宝塚音楽学校の生徒が「ヅカガール」をはじめとする様々な名称で呼ばれることを嫌い、タカラジェンヌと呼ぶことを発案した」²⁸、**アシヤレーヌ**は「女性誌「VERY」が作った造語」²⁹、**シロガネーゼ**は「光文社発行の女性向け月刊誌「VERY」の編集者であった相沢正人が1998年に作った造語」³⁰とあり、**おおたかジェンヌ**は2018年から東武鉄道の中刷り不動産広告に見られる表記³¹である。**マクハリ**

²⁷ 行政におけるカタカナ語について

http://www.city.miyama.lg.jp/info/prev.asp?fol_id=2342

²⁸ タカラジェンヌ, フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』[2019/05/05 最終アクセス]

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%82%AB%E3%83%A9%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%83%B3%E3%83%8C>

²⁹ アシヤレーヌ, フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』[2019/05/05 最終アクセス]

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%B7%E3%83%A4%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%83%8C>

³⁰ シロガネーゼ, フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』[2019/05/05 最終アクセス]

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%AD%E3%82%AC%E3%83%8D%E3%83%BC%E3%82%BC>

³¹ Solaie ソライエ流山おおたかの森, Tobu Railway Co., Ltd. & Shimizu Comprehensive Development.

<https://www.n-352.jp/> [2019/05/05 最終アクセス]

マンションマニア, 【おおたかジェンヌ】ソライエ流山おおたかの

一ゼも含め、こうした表現がいずれも不動産販売・広告・宣伝主体で発想されてきたことは明らかである。以下の文章は屋外広告サイン業界の内輪話³²である。

【前略】未来の話でもありながら、生活臭さをかもしだす、この導入部は、映画を観る人をスムーズに物語の中へとといざなうようだ。【中略】広告の内容や音声や文字も何か「オカシイ」。広告映像の日本髪の女性が「いそにすむ〜ちどり〜♪」(古今和歌集の和歌)と謳っていると、**「ゴルフ用品」のネオンサイン（ゴルフ用品）**やら、そこここに**「オカシイ」サインが溢れている**。また、「安くてうまい」「東京」「五十年」などの落書きが唐突に画面に現れる。これらは新宿歌舞伎町のイメージを重ね、異国情緒を表したようだが、「看板の氾濫」「無意味な情報の洪水」は、我々サイン業界に身をおく者としては考えさせられる。【中略】

デジタル時代だからこそ、なおさら「文字および音声・映像情報に依存しすぎるサインの氾濫」を避ける工夫、知恵が必要なのではないかと思う今日この頃である。

一方で、東洋経済オンラインには次のような文章³³も見られる。

渋谷パルコ以降、1990年までに渋谷に登場した施設をざっと挙げると、1975年にパルコパート2、1978年に東急ハンズ、1979年に渋谷109、1981年にパルコパート3、1987年にロフト、1988年にクアトロ、1988年にワンオーナーイン、1989年にBunkamura——と、今の渋谷中心部はセゾングループ全盛期に形作られてきたことがわかる。

その後、バブルの崩壊と同時にセゾングループは解体に向かうが、渋谷の文化自体は生き続けてきた。1990年代には、フリッパーズ・ギターやビッチカート・ファイヴなど、「渋谷系」といわれる音楽が流行ったこともある。

2つ目の理由はファッション業界の変化だ。1980年代以降、渋谷は若者ファッションを生み出してきた。1980年代中盤から1990年代前半にかけて若者を渋谷に引き寄せたのが「渋谷カジ」といわれたスタイル。その後、1991年から2001年にかけてはチーマーを皮切りに、コギャル、ロコギャル、ガングロ、ヤマンバ、ギャル男などと称されるギャル文化が一世を風靡した。渋谷で流行ったルーズソックスや厚底ブーツなどが全国に広まったことも今では懐かしい話だ。

6. 英語学習に対する影響

英単語に由来するカタカナで表記される外来語は現代日本語で広く使われているが、英語学習に対する良い影響として、英単語に対するなじみ・親密度を高めている。単語親密度とは、見たり聞いたりしたときにその単語を知っていると思う度合いであるが、横川ほかの調査[31]でも「親密度の高い語の・・・特徴として・・・特に目立つのは、外来語としてのカタカナ英語で使われているものが多い」としている。しかし、

森 [2019/05/05 最終アクセス]

<https://twitter.com/mansionmania/status/1012147310245994496>

³² [9] 参照。

³³ 「カタカナだらけ」東洋経済オンライン

<https://news.goo.ne.jp/article/toyokeizai/trend/toyokeizai-187445.html?page=1>

カタカナ語の影響によると思われる英語の発音の違い・文法的な違い・語義に対する誤解・慣用からの逸脱など、英語学習にとって以下のような様々な悪影響が見られることも確かである。

第一著者がこれまでの研究で蓄積した学習者データにも、英語の文章ならびに発話のなかに、カタカナ語の影響と思われる誤用が見られる。

- (1) 発音: *bat* を「バット」、*ball* を「ボール」のように、カタカナ語の影響により誤って発音される単語³⁴が数多くある。学生が英語を学び始める前に覚えた外来語としてのカタカナ語の発音は日本語としての発音であり、一度覚えてしまった日本語としての発音を忘れて英語として正しい(通用する)発音を身に付けることは、大学生となると極めて難しい。これとは別に、*energy* を「エネルギー」、*virus* を「ウイルス」のなどのように、フランス語・ドイツ語など英語以外の言語から借用された語彙が、同じカタカナで表記されることによる混乱も生じている。定着した専門用語にも、CAD を「キャド」と読ませ、「アバランシエフォトダイオード」や「デプレッション型ダイオード」³⁵など、原語の発音を無視したカタカナ表記も多い。
- (2) 単語の文法的特性の違い: 学生の比較的自発的な発話や丁寧な推敲を経ていない作文を見ると、「チョイスする」という日本語から *choice* (名詞) を動詞のように捉えて、*choiced* と過去形にして英語の文を構成する例がみられる。「スルーする」・「アバウトな」・「アウェー」なども日本語の表現として理解している限りには差し支えないが、英語でも *through* を動詞、*about* を形容詞として使えると誤解すると、意思疎通に支障が生じる。英語の *private* は名詞としては「兵卒」を示す用法があるが、広く使われるのは形容詞としての用法である。近年の日本語では「プライベート」という用法のほか、名詞として「プライベート」を使う例が広がり、辞書にも採録されるようになってきた。マイカー・マイホーム・マイルール・マイブームなど、マイで始まるカタカナ語は多

いが、英語の *my car* と日本語の「マイカー」は意味が全く異なる。学生同士のコミュニケーション活動で “Do you have my car?” というような質問を屈託なく相手に問いかけるのを見ていると、英語母語話者に対しどのどのような誤解を与えるか、大いに懸念される。

- (3) 語義・慣用のずれ: カタカナ語とそのもととなる外国語・日本語の単語が混同されることによる日本語・外国語の学習に対する悪影響もある。英語の *image* と日本語の「イメージ」などの語義のずれ³⁶や、日本語で広く使われる「メリット・デメリット」を英語でもそのまま *merit / demerit* とするなど、語義・慣用のずれ、慣用的でなく不適切な用法の英語がみられる。

もっとも、英米の辞書での定義・用法からずれているからと言って一概に間違いとは言えない場合もあり、その判断は微妙で難しい。次に、一例として「ソウルフード」*soul food* についての一文³⁷を紹介する。

【前略】会合の雑談で食べ物話題となり、その日本人は、「日本ではご飯とみそ汁が *soul food* のようなもので、各国に *soul food* があると思うが、あなたは日本の *soul food* をどう思うか」というような英語の質問をネイティブ(アメリカ人)にした。【中略】ネイティブ氏は、「私は日本に来て日が浅いので、*soul food* を出す店があるのかどうか知らない。ただアフリカ系アメリカ人も多いので、私的な集まりで *soul food* を振る舞うことはあるのではないか」といった答えをしていた。【中略】その日本人が訊きたかったのは、「日本のご飯とみそ汁をどう思うか」、あるいは「日本のお国料理は何だと思うか、それをどう思うか」というようなことだったはずだ。【中略】かみ合わない答えを聞きながら、私は「やっぱりそうか」と思った。つまり、*soul food* と「ソウルフード」は違うのである。【中略】私の話には続きがある。英語の辞書が *soul food* に「各国のお国料理」の意味を載せていないことを確かめたあと、ふと、「この言葉を日本人と同じように使っているケースはないだろうか?」という考えが浮かんだ。そこで、いくつかの国の名前と "*soul food*" をかけあわせてウェブで検索したところ、おもしろいことに、かなり多くの例がヒットしたのである。つまり日本語の「ソウルフード」と同じように使われているようなのだ。【中略】"*soul food* は今やアメリカ南部の料理に限られるものではない」と高らか?に歌い上げている韓国料理のサイトもあった。【中略】これはもしかしたら、英語の国際化、それに伴う英語の脱英米化のひとつの実例と言えるのかもしれない。

第一著者は授業の中で応答練習という課題を 2002 年度から毎年繰り返している。教員があらかじめ用意して名刺サイズの用紙に印刷した質問を 10 枚学生 3

³⁴ [13, 15, 31] ほかを参照。

³⁵ 近年になってようやく「デプレッション」という表記が見られるようになってきた。

³⁶ [27, 29] など参照。

³⁷ *soul food* は「ソウルフード」と同じなのか、それとも違うのか[注意したい単語・意外な意味]

<https://eigo-kobako.blog.so-net.ne.jp/2018-10-22>

人のグループに配布し、1人が2回読み上げ、10秒間考える時間があり、1人が45秒間の持ち時間で回答し、もう1人はタイムキーパーを務め、タイムキーパーと質問を読み上げた学生が回答を評価し、役割を順次変えていくという練習で、そのうちの一部を書き起こしている。今回検討した応答練習の書き起こしデータには2,984の応答が含まれる。そのうち、*choose / chose / chosen / choice / choiced* というつづりを含むものは118あり、*choice* は37あった。

- *choice* を最初から正しく使っている(正用) 8
- *choice* を明らかに動詞として使用しようとして *choose* に訂正している(=言い直して正用) 3
- *choice* を最初から明らかに動詞として使用している(誤用) 24
- 言い換えて *choice* を動詞として使用してしまった(=言い直して誤用) 1
- どれに入れていいか判断ができない 1

こうした回答を引き出した質問を見ると、*choose / choice* などの単語が用いられていることも多く、ある種の語彙的なプライミングが上記のような誤用を導いた可能性も考えられるため、質問のいくつかを紹介する。(著作権の関係ですべてを紹介することは控える)

表6 回答に *choice* が含まれる質問例

Q-mt07	Someone gave you enough money to travel around the world for one month with another person. Given the choice, would you rather travel with one of your friends or someone in your family? Why?
Q-ch10	You are offered a chance to spend one year in an English-speaking country? If you are allowed to choose, which country would you like to go: the USA, Canada, Australia, New Zealand, or the UK? Why?
Q-co01	If you have only 15 minutes for lunch, would you get a sandwich, would you skip the meal entirely, or would you rather be late for the next class and have a decent meal? Explain why.
Q-ed08	Among the various activities that you did during class or as homework, what was the most interesting or enjoyable for you? Be as specific as you can and give some concrete examples and reasons for your answer.
Q-se09	When you go out for dinner with your friends, which of the following would be more important in making your choice, quality of food and drinks, or atmosphere and price?

謝辞・注記

本稿のカタカナ語についての一般的な検討の一部は[19]を加筆修正したものである。第一著者は本稿を執筆・編集中の2019年6月7日に早稲田大学構内で転

倒して左手首を骨折し6~8週間にわたってギブスで固定することとなり、7月5日の締め切りまで原稿の執筆・編集・修正に多大の制約を受けることとなった。本稿は不完全な未定稿として理解していただきたい。

本稿の執筆にあたっては、佐良木昌・柏野和佳子・鍋井理沙・河村まゆみ・栗原奈々子の助言と協力を得ている。本稿で紹介するデータの収集・分析にあたっては、以下の科研費ならびに早稲田大学特定課題研究助成費による支援を受けている。

- 科研費基盤研究(B): 課題番号 15H03226 『日本人英語学習者のインタラクティブ(相互行為)を通じた自律的相互学習プロセス解明』(研究代表者: 原田康也)
- 科研費基盤研究(B): 課題番号 18320093 『学習者プロファイリングに基づく日本人英語学習者音声コーパスの構築と分析』(研究代表者: 原田康也)
- 早稲田大学特定課題研究: 課題番号 2018B-016 『氾濫するカタカナ語の言語(英語・日本語)学習に対する影響の調査と対応策の提案』(研究代表者: 原田康也)

参考文献

- [1] 一般社団法人共同通信社(編著), 記者ハンドブック第13版, 株式会社共同通信社, 2017年3月30日第13版第4刷発行.
- [2] 一般社団法人中央調査社, 「中央調査報 (No.550)より: 誤解多い慣用句、定着しないカタカナ語—文化庁の「国語世論調査」結果から」, <http://www.crs.or.jp/backno/old/No550/5501.htm> [2019/06/01 最終アクセス]
- [3] 小野雄一・呼思楽・森野綾香・若松弘子・砂川詩織, 「日本語の料理名に出現する英語前置詞の借用について: Cookpad データと実証実験から見えるもの」, 言語処理学会第23回年次大会発表論文集, pp. 1184-1187, 2017年3月6日.
- [4] 柏野和佳子・奥村学, 「和語や漢語のカタカナ表記: 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の書籍における使用実態」, 計量国語学, Vol. 28, No. 4, pp. 153-161, 計量国語学会, 2012.
- [5] 柏野和佳子・中村壮範, 「現代日本語書き言葉における非外来語のカタカナ表記事情」第4回コーパス日本語学ワークショップ予稿集, pp. 285-290, 国立国語研究所, 2013年9月.
- [6] 加瀬英明, 「【加瀬英明の日本を守る】女性議員が日本国民の美意識を破壊小池百合子氏の生半可な英語もひどい」, 産経ニュース, 2017年8月25日. <https://www.sankei.com/politics/news/170825/pl1708250002-n2.html> [2019/06/18 最終アクセス]
- [7] 株式会社ネオマーケティング, 「カタカナ語に関する調

- 査」,株式会社ネオマーケティング,2016/9/14.
- [8] 株式会社ベネッセホールディングス,「第2回 現代人の語彙に関する調査」結果速報,株式会社ベネッセホールディングス,2017/9/28.
- [9] 木村英昭, Cinema & Sign Paradise 第2話ブレードランナー. [2019/05/30 最終アクセス]
<https://cinemasign.exblog.jp/13041202/>
- [10] 篠塚勝正・窪田三喜夫,「日本語文字形態(漢字、ひらがな、カタカナ)による認知言語処理の差異」,成城文藝, vol. 221, pp. 98-84, 成城文藝文藝学部, 2012年12月.
- [11] 島田雅晴, 長野明子, "Use of English Prepositions as Japanese Predicates: A Challenge to NLP." 言語処理学会第23回年次大会発表論文集, pp. 294-297, 言語処理学会第23回年次大会プログラム委員会, 2017年3月6日.
- [12] 高村大也・永田亮・川崎義史,「外来語の意味変化に対する数理的分析」,言語処理学会第23回年次大会発表論文集, pp. 907-910, 2017年3月.
- [13] 鍋井理沙・原田康也,「日本人英語学習者の英語リスニング;ディクテーション課題における非強勢要素の聞き取りと書き起こし」,信学技報, vol. 113, No. 354, pp. 71-76, 2013年12月7日.
- [14] 竝木崇康,「日本語の新しいタイプの複合語『リンサインシャンプー』と『リンサイン入りシャンプー』」大石強ほか編『現代形態論の潮流』, pp. 1-19, くろしお出版, 2005.
- [15] 原田康也,「外国語の副作用:言語景観と言語学習」,第138回次世代大学教育研究会, 琉球大学, 2018年1月6日.
- [16] 原田康也,「英語学習に対する阻害要因としてのカタカナ語」,日本英語教育学会・日本教育言語学会第48回年次研究集会:英語学習を支える言語環境・言語景観, 早稲田大学, 2018年3月3日・4日.
- [17] 原田康也,「コミュニケーション阻害用意としてのカタカナ語」,日本ビジネスコミュニケーション学会 2017年度第二回研究集会・第140回次世代大学教育研究会, 早稲田大学, 2018年3月18日.
- [18] 原田康也,「"I choiced this class because I want to improve my English.":カタカナ語の英語学習に対する影響」,第149回次世代大学教育研究会, 愛媛大学, 2018年12月8日.
- [19] 原田康也,「シロガネーゼ対おたかジェンス:カタカナ形態素おそるべし」,信学技報, 2019年7月7日.【発行予定】
- [20] 原田康也,「映像作品に見る香港・澳門・新嘉坡・東京の言語景観:二つまたは三つの観察と考察」,日本ビジネスコミュニケーション学会 2019年度年次大会・第156回次世代大学教育研究会, 早稲田大学, 2019年7月13日.
- [21] 原田康也・河村まゆみ,「"Do you have my car?":カタカナ語がヤバイ」,2018 科研費合同研究集会@早稲田大学:高等教育と英語学習への多様な取り組み, 早稲田大学, 2018年12月14日.
- [22] 原田康也・河村まゆみ,「日本人大学生の英語インタラクティブに発現するカタカナ語の影響」,第150回次世代大学教育研究会, 琉球大学, 2019年1月6日.
- [23] 藤家伴昭・竜岡博,ローマ字文(日本式(訓令式))における外来語表記法の提案,言語処理学会第5回年次大会発表論文集, 1999年3月.
- [24] 文化庁,「平成14年度「国語に関する世論調査」の結果について」, [2019/06/01 最終アクセス]
http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokei_chosa/kokugo_yoronchosa/h14/
- [25] 文化庁,「カタカナ語の認知率・理解率・使用率【認知率順】」, [2019/06/01 最終アクセス]
http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokei_chosa/kokugo_yoronchosa/h14/katakana_ninchi.html
- [26] 文化庁,平成29年度「国語に関する世論調査」の結果の概要, 2018年9月25日.
http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/_icsFiles/afiedfile/2018/09/21/a1409468_02.pdf
- [27] 本田秀仁・藤崎樹・植田一博,「“レモン”より“檸檬”を買いたい:日本語表記の希少性と可読性が食品認知に与える影響」,日本認知科学会第34回大会発表論文集, pp. 794-796, 2017年9月13日.
- [28] 松田典子・岡田明,「意味の有無がカタカナ文字提示課題における読み方に与える影響」,読書科学 58(2), 97-107, 2016, 日本読書学会
- [29] 村中淑子,「「グレー」と「灰色」について:外来語と和語の類義語ペアの使い分け事例として」,『現象と秩序』第3号, pp. 57-68, 神戸市看護大学榎田研究室内現象と秩序企画編集室, 2015年10月30日.
- [30] 文部科学省, 外来語の表記 内閣告示第二号, 1991年6月28日.
www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/k19910628002/k19910628002.html
- [31] 横川博一, 日本人英語学習者の英単語親密度 文字編—教育・研究のための第二言語データベース, くろしお出版, 2006年9月7日.
- [32] 横森大輔・遠藤智子・河村まゆみ・鈴木正紀・原田康也,「日本語を第一言語とする英語学習者の比較的自発的な発話におけるフィラーに見られるいくつかの特徴」,日本英語教育学会第43回年次研究集会発表論文集, pp.89-96, 日本英語教育学会編集委員会編集, 早稲田大学情報教育研究所発行, 2014年3月31日.
- [33] 若松弘子,「料理レシピの名づけにおける@の使用についての予備調査」,言語処理学会第23回年次大会発表論文集, pp. 298-301, 2017年3月6日.
- [34] 若松弘子・島田雅晴,「料理サイトのデータから言語接触理論を考える:前置詞 with の借入について」IDR ユーザーフォーラム 2017,国立情報学研究所(NII), 2017年12月4日.
- [35] 若松弘子,「日本語における英語定冠詞 the の借用について:料理サイトのデータから」,言語処理学会第24回年次大会発表論文集, pp. 49-52, 2018年3月5日.
- [36] Yasunari Harada, Plenary Talk: "Adverse Effects of Katakana Words and Expressions in Japanese on Communication among Native Speakers of Japanese," JWLLP-24: The 24th Joint Workshop on Linguistics and Language Processing concurrently with 2018 Joint Conference of the Korean Society of Corpus Linguistics and Kyung Hee Institute for the Study of Language and Information, Kyung Hee University, Seoul, 2018年6月9日.
- [37] Yasunari Harada, "Adverse Effects of Loan Words in Japanese for Japanese Learners of English," the 54th RELC International Conference and 5th Asia-Pacific LSP and Professional Communication Association Conference, SEAMEO Regional Language Centre, 2019年3月12日.